



自殺ゲートキーパー育成に向けての活動

学科・専攻
養護保健学科

担当教員
養護保健学科 全教員



連携先

藤井寺保健所
柏原市健康福祉課



プログラム内容

①若者の心の動き、特徴、②現代の自殺の現状、③ゲートキーパーの役割、④若者に対するコミュニケーションのありかたや効果的な傾聴など基本的な技術(ロールプレイングを行い、コミュニケーションのあり方、効果的な関わり方、ふさわしい自分のふるまい)、⑤依存症とその弊害、対処法、について講義およびロールプレイ演習を通して学習しました。

成果・考察

柏原市健康福祉課と協働で自殺ゲートキーパー育成研修を実施しました。自殺について正しい知識を持ち、あらゆる年代、状況下において自殺の危険性があることを学び、コミュニケーションの重要性と対応について学習しました。

3人1組で参加者(学生・柏原市職員)が実際にロールプレイを行い、傾聴の基本的な技法を学習し、具体的な対応方法を学びました。学生は児童生徒の心のケアについて理解を深め、地域のゲートキーパーとしての自己の役割を認識することができました。

藤井寺市保健所地域保健課職員には心のケアとして、ストレスとストレスコーピング、アルコール等含めた依存症についての講義、断酒会の方の実際の体験談等を聞くことにより理解を深めることができました。



養護保健学科

高森香 准教授

若者のこころの特徴を理解し若者への対応方法を学びました。自殺ゲートキーパー養成講座では、傾聴の基本的な技法を学習し、ゲートキーパーの一連の役割を参加者(学生・柏原市職員)が実際にロールプレイを行いながら学習しました。

自殺の危険性に気づくことができる力の大切さ、また声掛けの大切さとともにその難しさも同時に学ぶことができました。

今後は、児童生徒、地域住民または身近な存在が自殺の危機に陥った際には、その徴候をキャッチし声をかけるなど、行動できる力を培ってほしいと思います。



養護保健学科

1年生 森田さん(R6.3/22現在)

この講座で自殺についてや傾聴の重要性について専門的に学ぶことができました。演習では、死や自殺に関する言葉を口に出すのは勇気が要りました。誰かが話を聞いてくれるだけで気持ちが楽になる体験ができてよかったです。

相談を受けたら、いきなり解決しようと思うのではなく、まず初めに相手に寄り添う言葉をかけることが大切だという事を学ぶことができました。

深刻な悩みを抱えている人に出会ったら、まず話を聞いて、寄り添えるようになりたいと思いました。